

令和7年度奨学論文

《論題》

映画『ソーシャル・ネットワーク』を通じた SNS の社会学的考察

法律政治学科4年 八尋 圭太

《要約》

本研究は、映画『ソーシャル・ネットワーク』（2010）を通じ、SNS 時代特有の「構造的孤立」のメカニズムを社会学的に解明することを目的とする。ブルデューの資本論、ゴッフマンの自己呈示論、ナラティヴ論を枠組みとして分析を行った。

分析の結果、以下の三点が明らかになった。第一に、承認欲求に端を発したオンライン上の自己呈示が、かえって現実の孤立を深める点。第二に、成功の過程で友情（強い紐帯）が資本の論理により有用性に基づく関係（弱い紐帯）へと置換される点。第三に、映画の語りにおいて共感を育む「共存的ナラティヴ」が欠落し、対立的な構造に終始している点である。

結論として、SNS は人間関係を競争の場へと変質させ、ユーザーをシステムからの反応を待つ「受動的な待機者」にする構造を持つと論じた。